

平成26年度高松市芸術士派遣事業活動報告

# 「3,704色こども」





## ご挨拶

本市が実施する芸術士派遣事業は、平成21年11月にスタートしてから6年目を迎えておりまして、保護者や関係者の皆様の御理解の下、今年度も、保育所、幼稚園、こども園での子どもたちの創作活動の内容を報告できますことを、大変慶ばしく存じております。

芸術士の方々には、子どもたちとふれあう中で、保育士や幼稚園教諭とは異なる感性を存分に発揮していただき、自由に表現する手助けを行うとともに、子どもたちが持っている個性や創造力を伸ばしていけるよう、これまで培われた経験を生かしたかかわりや助言などを行っていただいております。

市内35か所で展開するこの事業は、自治体が独自に取り組む保育支援の事例としては初の試みでございまして、芸術士と保育士・幼稚園教諭との連携から生み出される新しい世界で、子どもたちは、芸術に触れる喜びや創作活動の楽しさをより実感しているようでございます。

本市におきましては、「高松市創造都市推進ビジョン」の中で、「クリエイティブ・チルドレン・プロジェクト」と題し、次世代を担う子どもたちの創造力を育むことに積極的に取り組むこととしておりまして、「芸術士派遣事業」はその核となる重要なものと位置付けております。

創造都市として飛躍していこうとしている高松におきまして、若いアーティストが、子どもたちに芸術に触れる機会を提供し、ともに創作活動に励むことは大変意義深く、感性や創造力豊かな人材育成にも繋がるものと期待しております。

子どもたちが自由に表現活動をする様子や、世界でここにしかない作品が活動の中で生み出される様子を御覧いただき、今後における子どもたちの成長に期待していただきたいと思っております。

高松市長 大西 秀人

## ご挨拶

平成26年5月18日訪れたイタリア・レージョ・エミリア市は、太陽がサンサンと溢れる光の街でした。煉瓦づくりの赤い屋根と緑溢れる公園のある、イタリア三色旗が生まれた16万人の上質な市。郊外には新幹線のモダンな駅やMaxMaraの本社、隣街にはスポーツカー・フェラーリの本社工場が。この街で今から70年前にドイツ軍が残していった戦車をくず鉄として売り、そのお金を使ってはじめた事業こそが、私たち芸術士のモデルとなった、アトリエ・リスタ（レージョチルドレン）活動です。

私と4人の芸術士はそんな街を存分に楽しむことができました。クジラの絵から建物が生まれた元気な子どもたちがいる幼稚園。お迎えしてくれたローリス・マラグリッチ・センターの40年近くのドキュメント。小学校3年になったレージョチルドレンの可愛い男の子ゆうじ君。廃材を教材や教育に使うことを啓蒙するボローニア・レミダセンター。ダム発電所を利用して科学と自然の不思議さを学ぶ、水のアトリエ。そして、人生を楽しんでいる豊かな街の人々。一時期、移民を受け入れて多様な人種になっているものの、街はキラキラと輝いていました。

平成21年の秋にはじまった高松市の芸術士派遣活動が、数十年したらどうなるのであろうかと、期待を込めて訪れたレージョ市訪問は、そんな結果や効果を短絡的に考察するという頭を、あっさりと切替えてくれました。今、行われているプロセスそのものが、その瞬間こそが大切なのです。結果への至近到達を探ることが教育ではなかったのです。3年生のゆうじ君は、何をしていたの?との質問に、一年中レタスを描いていたよ。と、教えてくれました。みずみずしいレタスがやがてしおれて、朽ちていく。それを観察して絵に描くことで、命を学んでいったのでした。どう描けばいいか?上手か?ではなく、何を見つめるか?を考えることが、レージョのアプローチです。今回のテーマの3,704色は今年の派遣先の子どもたちの人数です。その色数だけのキラキラした個性を、是非、みなさんと一緒に育んで行きましょう。

NPO法人アーキペラゴ 代表理事 三井文博



## 高松市芸術士派遣事業とは

様々な芸術分野に高い知識を有する「芸術士」が、保育所・幼稚園・こども園で生活を共にしながら、子どもたちの興味や芸術表現をサポートするアートな保育が、平成21年秋より始まっています。市内35施設の保育所・幼稚園・こども園(平成26年度)で展開するこの事業は、自治体が独自に取り組む保育支援の事例としては初めての試みです。

多くの子どもたちが共に過ごす保育所・幼稚園・こども園を舞台に、彼らの感性と創造力の芽を見つめ育む環境を整備すべく、アートを通じた活動経験を有する「芸術士」が週1日ペースで各施設に派遣され、単発のワークショップや発表会に向けた制作ではなく、年間を通して保育に参加し、子どもの日常をアートの目線から“見守る”という関わり方をします。

各施設で展開される芸術士活動は、あらかじめゴールが設定されているという訳ではありません。定式化されず、子ども・芸術士・保育士・幼稚園教諭が共に素材やテーマから学び・発見し、どこに行き着くかを知らない開放性は、時に大人たちに困難さを与えます。「この事業は、どこにねらいがあるのですか?」と必ず聞かれますが、この不確かな状態が、活動を一層面白いものに行っていると考えます。何より大人たちの想定を超える出来事の数々がそれを裏付けています。

本事業は、結果ではなく、過程を大切にします。活動の中で、子どもたちが思い思いに感じ表現するとき、子どもは独自の心を持っていることが分かります。その一人一人の行為や言葉はドキュメントとなり、芸術士と子どもたちが一緒に答えを探した経過として記録されます。

芸術士は、普段の保育の中では見たことのないようなもの、したことのない体験、考えたことのないこととの出会いを提供し、子どもたちの可能性を狭めることなく、彼らの自由な発想と創造力を最大限に引き出す環境をつくれます。また、アートに正解がないように、ある問いについて返ってくる彼らの答えはひとつとして同じものではありません。子どもたちの自由な発想を芸術士が見守り・支え、その表現したことを褒め・認めることもまた、大切な環境の要素のひとつです。

毎年の活動報告展の開催・冊子の発行のほか、瀬戸内国際芸術祭うみあかりプロジェクトへの参加(平成22年7月)、高松琴平電気鉄道とのタイアップ・スタンプラリー企画(平成23年7月)など、子どもたちと地域を繋ぐ役割にも取り組んでいます。アートを媒体としたこのプロジェクトが、これから社会を担っていく未来の子どもたちを豊かに育む力となっていくものと考えています。

可能性の育み  
**芸術士**<sup>®</sup>  
 芸術士プロフィール



**谷 由貴**  
 専門:染織・美術家アシスタント  
 在籍期間:2009.10~



**松野 礼子**  
 専門:絵画  
 在籍期間:2013.4~



**平川 めぐみ**  
 専門:ファッションデザイン  
 在籍期間:2013.4~



**ルカ・ローマ**  
 専門:彫刻  
 在籍期間:2014.4~



**Frida**  
 専門:ピアノ/うた  
 在籍期間:2014.4~



**松尾 由美**  
 専門:洋画  
 在籍期間:2013.4~



**美濃 花織**  
 専門:イラスト  
 在籍期間:2012.4~

**カタタチサト**  
 専門:身体表現  
 在籍期間:2013.4~



**三好 智子**  
 専門:漫画  
 在籍期間:2013.4~



**村井 知之**  
 専門:パフォーマンス  
 在籍期間:2009.10~



**片岡 明日香**  
 専門:インスタレーション  
 在籍期間:2013.4~



**すぎやま あゆみ**  
 専門:油絵  
 在籍期間:2014.4~



**榎本 美千子**  
 専門:日本画  
 在籍期間:2010.1~



**池田 早智**  
 専門:日本画  
 在籍期間:2013.4~



## 松島保育所 「ふだんのじぶんとすこしちがうじぶん。」

平川 めぐみ 芸術士

視覚と聴覚  
めぐみ先生は男なん、女なん?談義がしばしば行われる。髪が短い声も…本当はどっちなんだろ?

つくる集中力  
自然に出来て行く作品たち…作品展やお店やさんゴッコ時の作品作りでは、こちらが困ることが全くなく、私は材料を運んでくるだけ。素材をみるやいなや、「つくりたい!」が爆発する。その情熱たるや…知らぬ間にビックリする作品を作り上げる。  
私は全く教えていない。才能。  
私はただ、ほめる。聞く。一緒につくる。  
ふとした瞬間の「先生、ありがとう。」こんなことが自然と言える。

おばけやしき・おばけづくり  
パニックになり「ゆうきのおふだ」を束でむしり取られる。いつも強がっている子が怖がって本気で泣いている。作ったコウモリやちょうちんおばけを、先生が教室の天井から吊るしてくれと、「もっと右」「いや左」と、角度に細かく注文をつける。作ったもののレイアウトまで指示できるようになったら、一人前! 大事に思う気持ちの表れが素敵だなと思った。

変身願望  
そら・き・あおさんと衣装づくりを、私も作りながら、一緒に。髪にリボンを巻いただけでも女の子はアガるし男の子も忍者になりきる事ができる!ふだんのじぶんとすこしちがうじぶん。  
その後のステージでの SHOW TIME では、

別の自分になりきって、踊った、舞った!  
「今日 めっちゃ静かやん」と言う  
「楽しいことしよる時は、ええ子なんやで。」  
モノを作り出す 真剣な表情。  
自分と向き合い 世界と向き合う。



## 福岡保育所 「ピアノが踊ってる!!」

Frida 芸術士

4月、初めての登所日。私が選んだ、子どもたちと過ごす時間は、みんなと楽器を演奏することやうたを歌うのではなく、「ピアノの中身を見てみよう!」でした。  
ひとりひとり抱き上げると、みんな中を覗こうと必死に首を伸ばします。

「あ、ピアノが踊ってるよ!」と笑う子どもたち。

鍵盤を弾くとハンマーが弦を叩く様子は、彼らにとって「ピアノのダンス」?! 子どもたちのイメージは、大人をひょいと乗り越えどんどん先へ行きます。  
追いつこうと必死な私の腕には、キラキラの目と、素晴らしい歌声、そしてときどき怪物。ありがとう。全部受け取ったよ。今度は私の番

だね。素敵なメロディにしてみんなにプレゼントするから待ってて~!

- 平成26年度みんなとの主なステージ
- [5月] 青空の下で叩くタンバリン(写真6)
- [6月] ステージの上で楽器に合わせて熱唱するディーバ(写真1)
- 2歳さん。保育所で採れたフウセンカズラの種の音を聴いてみる(写真7)
- [7月] 2歳さん。黄色い布につけたフサフサのボンボンを取ってみる。「ボンボンブラン」のうた。感触(写真3)
- [8月] 青い布とピアノの音での遊び。長いそら豆になった4歳さん。ピアノに合わせてはじけ飛ぶ(写真2)

- [9月] 春に猫の鳴きまねの歌とダンスをした2歳さん。みんなで猫の顔づくり。なかに鈴をいれて(写真4)
- [10月] 5歳、4歳さん。「歌手になって」歌声をもっと遠くへ
- [11月] 5歳、4歳さん。商店街「自転車押して歩こう」ソング録音





## 木太保育所 「同化するカラフルな世界」

片岡 明日香 芸術士

絵を描いている。  
いつの間にか、顔にも手にも足にも色を塗って  
みんなは絵と同じ色になっている。  
土ねんどで遊ぶ。  
いつの間にか、みんなの全身は  
粘土と同じ土色になっている。

絵のまん中で、嬉しそうに手足をバタバタさせて  
色まみれになって笑っていた男の子が、近く  
にいた女の子に「なに目指しとん?」と言われ  
たり。顔に色を塗っていて「ちょっと地味かな」  
と塗り足したり、「絵の具妖怪〜」と、絵の具  
まみれで踊りだしたり。  
そんな子どもたちが、そこかしこにいる。  
そのくらい、活動のたびにその素材や色その  
ものと、みんなはいつのまにか同化している。

その全身でもって、その瞬間、その素材を  
めいっぱい楽しんでいる。  
そういうやり方で素材そのものを楽しみ、  
知ることが出来るのは、  
子どもならではの、彼らの姿をみている、と思う。

笑顔であふれているその光景は、  
ほんとうに幸せで暖かで、とても豊かな時間だ。

いま大切なことは、いま目の前にある。  
それを、みんなの笑顔や、  
どこからそんな発想がでてくるの?という  
言葉から、こちらがドキッとしてしまうくらい  
真っ直ぐに、いつも教えてもらっている。



## 屋島保育所 「キレイだけじゃない!」

カタタ チサト 芸術士

どの子にもいいと思うやり方があって、表現  
の表出の仕方だって違う。自分と違う感覚や  
表現をお互いにリスペクトしあっていく彼ら  
は、アーティスト同士だって難しい「自分の想  
いを表現し、他人との違いを認める。」ってこ  
とをどんどん身につけていく。

芸術士活動の時間は、同じ素材、  
同じ時間から始まる  
限らない表現と欲がスパークする時間。

すべての過程にからだ全開でいどんでくれる  
から、こちらもちよとした仕草でのレスポンス  
だって見逃さない。  
大げさなことじゃなくなつて、そつとした時間、  
ふとした表情にもその子なりの開かれた表現

がある。  
私たちは、事柄や現象、沸き起こる気持ち、  
動いてしまうからだ、に真剣にむかいあって  
いるんだ。

いきることと表現することは直結しているので、  
芸術士活動が、保育の中の遊ぶ、食べる、  
眠る、着替える、学ぶ時間とならんで同じ場所  
で行われることが実はすごく重要なんだな。

季節を追うごとに、その日々の重なりが  
彼らの持っている素晴らしいパワーを、さらに  
彩るひだを作るのに役立っているんだな、と  
確信しています。





1



3



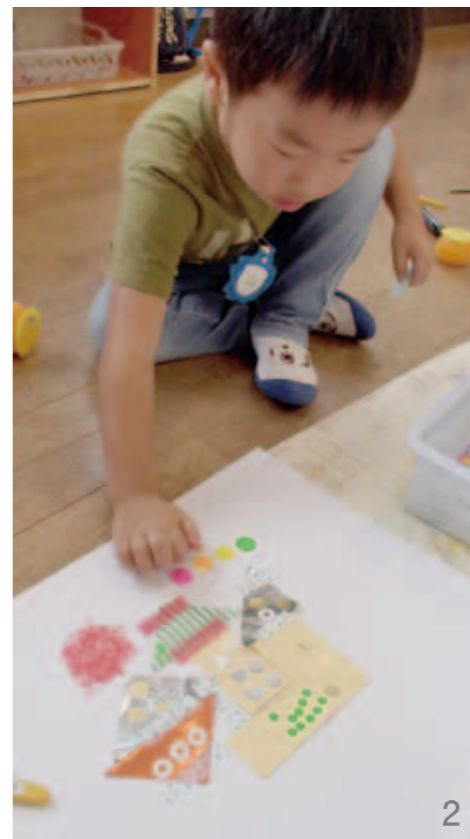
4



1



4



2



3



2



5



5



## 下笠居西部保育所 「継続する遊び、伝えるちから」

樫本 美千子 芸術士

制作大好きなKくん。今日は「しし頭」を作る。ゆたんやしし頭を自分の為に作る。完成したおししで1日遊ぶKくん。いつもならこの日だけで終わってしまう遊び。ただ今回は、いつもと違った。翌週訪れた私に「見ててね」と、自作のしし頭を使い、振ったり、跳ねたり寝転がったり…まるで「大人が使う獅子」のような獅子舞を見せてくれた。

「どーん、どん!!」Hくんが太鼓を叩いてKくんを盛り上げてくれる。先生がこっそり教えてくれたこと。「毎日2人でおしし遊びしていたから、Hくんの太鼓も日々上手になったんですよ」KくとHくんのコラボ。

その楽しげな様子に小さなRちゃんやKちゃんも参加し、どんどん遊びが伝わっていく。おしし制作からは、はや1か月「自分のおししをつくる」この小さなきっかけから、子どもたち自身が広げていった遊びは、長く継続し、新しい遊びを生み出していく。

豊かな自然に囲まれ、12人の子どもたちは年齢を超えて関わり、泣いたり、笑ったり、怒ったり、日々子ども同士の関係の中から新しい何かを発見し学んでいる。ある時、街中で会ったHくん。手にかわいいプレスレットを持っている。「Rちゃんにプレゼントする!!」いつも遊んでいるRちゃんを思いHくんの中から自然発生的に生まれた優しさだ。

日々感じたことから生まれた、この関係こそ、子どもたち本来の姿であり、学び合い心を成長させる力だと思う。

そして今日もHくんの獅子舞ライブは続いている。



6

## 香西保育所 「自分の楽しみ方」

松野 礼子 芸術士

前のあれは好きだったけど、これはちょっと苦手。苦手苦手ばかりじゃないし、好きばかりでもない。自分の楽しみ方を見つけるのが上手い子もいる。毎回じゃなくても自分の好きなもの、好きなことを見つけて、ぐっと入り込んでいる姿を見ると嬉しくなる。

汚れるのが苦手で絵具の活動に参加しなかった男の子が、色のついた紙粘土の時間「こんなん良かった」と言ってくれた日。(写真1)

コラージュ遊びの日には「これなに?」と聞くと「わからん…」と言いながら色と形のバランスをとっている子、目についたものをどんどん

貼っていく子、シール貼りに夢中な子、テーマを決めて集中して作っている子。(写真2)女の子4人組は固まって制作。最初は似たような絵を描いていたけれど、途中から自分の色が出てきた。

お絵描きの時間に「アイスたべてて これがこのこのすきなこで あめがふってきて…」と毎回違う物語を教えてくれる。(写真3)

ゴミ袋で大きいエアードームを作った時、空気を入れてどんどん膨らんでいくドームを見ている目。(写真4)

ドームの中に入って、お友達に自分の描いた絵を教えている顔。(写真5)

それぞれが、自分の楽しみ方を見つけられる。そんな時間を過ごしてほしい。







## 林保育所 「3704色のこども便り」

松尾 由美 芸術士

「絵が描けん…  
 どうやったらええん?横におって」  
 何回か そばに行く。  
 足に塗って紙にも塗る  
 「びんちゃ——ん。  
 ひとりじめしたいけん 明日も来て。  
 明日はびんちゃん100人でこれんの?」  
 私を見上げる不安そうな顔。  
 時間とともに笑顔をくれるように変わっていった。  
 普段をどう感じているか?  
 おもうまんま そのまんま  
 暑さ 涼しさ 川の流れ 海の声 蝉の声  
 風の跡 そよ風の心地よさ  
 見えないものを 紙に向かって表した。  
 自分が全部の世界  
 引っ込み思案だった手が するする動く。

この時の事を 一緒に感じながら表現をする。  
 絵を描きながらの お話は楽しい  
 「絵 好きや、自分が全部でええんやろ??」  
 改修工事中の 最中 なんだか暗いね  
 「ねずみ色の世界や。ねずみが来るかもよ?」  
 そりゃ いかん という事で 園庭に色を添える。  
 電線ルール芯 大きなのを赤く色付け  
 油絵の具で奮闘中  
 「これ お日様にしようよ。びんちゃん」  
 「じゃあ ちいさいんはお月様や」  
 ねずみいろの世界が 明るくなった。  
 ある日  
 自分で撮った空の画像をみてそっとつぶやく  
 「ここ びんちゃんのおるところ。  
 雲の真ん中の穴の奥の奥が俺がおったとこ

これは 地球の一部なんや  
 おれとびんちゃんも地球の一部なんや  
 へへへっ ええやろ ——っ(ニコッ)  
 うん  
 むっちゃ ええ  
 あなたのニコッ が むっちゃ好き!



## 東植田保育所 「ふだんのあそび・せいかつを共にしつつ、ずらしたり・ちがうものにしたたり」

村井 知之 芸術士

□4/15 初日 所庭で絵を描きますか、となる  
 Aさん(3歳)の前に座るじっとしている  
 私が飛行機みたいなものを描く  
 その空白に描く また別の物を...を繰り返す。  
 絵を描く事で会話する  
 彼女は度々一度踊る様に場を離れ  
 しばらく眺め また舞い戻る。  
 □5/19 運動会お疲れ様の儀式を提案  
 シャーマン役になりオノマトベと楽器で祝う  
 聖なる水(白湯)を盃に注いで飲むのです  
 Rくんは私の事を「お地藏さん」と呼び、  
 Hさんは砂で作るご飯に  
 「おいしくなるよう魔法をかけて」と  
 □6/9 数回続けてみている絵描きさんゴッコ  
 所庭の鉄棒にイーゼルの様に台紙をぶらさげ  
 描きます

緩やかにBGMでレゲエダブをかける回もあり  
 聞かれない限りは何も言わず傍にいます  
 畑で父が刈った木の枝をその横で  
 Kさん(2歳)は黙って見つめ対話しております  
 □8/18 散髪した髪で作った筆を持参  
 よくにおい、よくさわります  
 □8/25 前夜雨だったので地面が程よく  
 水気を含んでいる マンホールのヘリ付近の  
 土をほじって粘土遊び  
 □9/22 車に絵を描く しばらく描いてから  
 Rくん(4歳) 「むーさんこれで帰るん?」  
 □10/10 蓮華の種まきに行く折、小学校の  
 工事を見て何しているのか聞くと  
 「かくしとる 色塗りよる」  
 種まきの種を見つめるHさん(5歳)  
 「音はさらこな、においは犬のえさ」

□10/28 ササゲという豆の皮むきをしていた  
 ので、そのむいだ皮で何か面白い事を皆で  
 いじりながら考える  
 変な物(オブジェ)をつくる うさぎの耳  
 名札にする 葉をお皿にしてその上のにせる  
 皮むき中のHくん(5歳)のむき方説明  
 「トンネルがいたらとれる」



## 塩江こども園

松尾 由美 芸術士

『うわあ ちょっとちょっと ぴんちゃんみてん!  
あそこ 山がお空に食べられよる〜』  
春雨の空模様。  
山の上に雲が降りてきて、  
てっぺんが真っ白 雲に隠れていました。  
『おにぎり山が お空にかじられよる』  
と みつめる目

自然が豊かなこの園で  
私は1台の車(もくも君)を通し  
今 色を深めています。  
おずおず作業からはじまった色付けも  
自主性の高まりを感じます。  
『何か手伝うで…なんでも言うてよ…』  
『こっちもぬったらえんやろ?』

私はみんなを頼りにしました。  
コミュニケーションの深まりを感じます。  
『びんちゃんも 悩みあるんか?』  
『そりゃあ あるよ。  
どしたん? 何 悩みよん?』  
ここからは ふたりのヒミツなので内緒に。  
おはなしの結末は…  
楽しい事を私といっぱいしよう!  
そして やりたくない事もがんばってみよう  
と 相成りました。

廃棄処分になると伝えた事に  
さみしそうなおもたち  
その顔を見て 思わず  
おかあさんがおむかえに来るよ、と  
私は嘘をついています。

スクラップになるこの車を介し  
やさしい言葉とつながる作品作り。  
そして まだまだこの活動は続いていきます。  
車を通して見られたこの関係は  
まるで人間の世界のようなのです。



## 大野東保育所 「いっしょに かわる」

池田 早智 芸術士

大野東保育所のみんなと、一緒にあそびはじめて今年で2年目。

去年、すこし遠慮気味だった子たちも、だんだん一緒にあそんでくれるようになってきた。私のバイク通勤を心配して、運転のアドバイスをくれる子も、初対面で「帰れ〜!!」って泣かれたのが嘘みたい。

今年で2年目。私も少しずつ、子どもたちの表情や気持ちに目を向ける事が出来始めた。

いたずらが成功して、ちょっと得意な顔も、ねらいどおりのものがつくれた時の満足気な顔も、友だちのけんかした時の泣き顔も、不思議に思ったことを話してくれるキラキラ

た顔も、どれもいつも新鮮でまぶしい。日々の生活やあそび、制作を通じて、様々な表情を見せてくれたり、気持ちを返してくれるのが、とても嬉しい。普段落ち着きのない子が、ある日ふと見せる集中力、執着。おとなしそうな子だと思っていたら、突然情熱的になったり。その子がかわる瞬間に立ち会えたのが、とても嬉しい。

彼らに感化されて、私も少しずつだけかわってきたい。一緒にかわっていけるのが、誇らしく思える。

かさあそび  
年長さんたちがつくったカラフルなかさ。  
小さい子たちも気になるみたい。  
今日は晴れだけど空にかざす。  
「キレイね」「ステキね」とこぼれる言葉に、  
みんな少し照れくさそうでした。





**浅野保育所** 「一緒に過ごしていると、たくさん何でもある事が起っている」  
村井 知之 芸術士

□4/18 初日 部屋で雑談中 年長Rさん  
「うまれたときはどんなせかいやった？」  
□4/24 部屋にてYくん(4歳)  
「バナナがあっちにもこっちにもあるんで」と私には見えないがちぎって見せてくれる。  
油粘土をしていてEくん(4歳)に作ったワニの事を聞くと  
「ワニは耳ないけど音きこえる」  
□5/1 所庭にて水たまりを見て  
「池にサメがおる」きりんAくん  
りすHさんが向こうから走ってきて  
「くもがきれいだよ」  
□6/19 年長さんと始めた竹の家シリーズで  
近隣の方の竹林に取りに行った帰り道、  
運んでいて少々疲れたのか  
「力の空気が抜ける～」

□6/26 竹の家制作初日 骨組みを作って、  
2階建て ドアをつける等の案が出た後  
おしゃれにするには？→  
「おかしつけたらええんや」  
□8/14 お盆の人数の少ない部屋  
Kさんに果物の絵を描いてと頼まれ  
描いていると、  
「マンゴーの中にタネとリンゴがあるんで」  
Kさん お腹がすいた折に  
「さわやかにお腹がへこんで中に入っていく」  
□8/28 部屋で遊び中 年長Rさん  
「ぶたにくって知ってる？」  
竹の絵本を製作し、仕上がり説明の折、  
英語のページがあったので尋ねると  
「描く事浮かばなかったけん描いた」  
□8/29 昨日の絵本製作で椅子に座って

描くスタイルだったので、今日は地べたもありで  
やると、昨日は1時間程考えればなしだった  
Dくん(5歳)が描き始める  
「いすに座ったら思いつかんかった～」  
□9/25 Hくん(1歳)  
窓から外のカスタック積んだ車を眺め  
「積んでる 走った 早い」と呟く  
ちいさいから すくなめのことばや  
たくさんのからだのことばが溢れております  
□11/6 午睡の折 ふとんの端のひもを  
味わっている彼(2歳)においしい? と聞くと  
「レモンの味」

**川東保育所** 「みんなしっかりじぶんの 世界がある」  
美濃 花織 芸術士

本年度で3年目のみんなとのひとときを  
過ごす 川東保育所さん  
所庭の一角にてペイントのひととき。  
Tくんは最後までずーっと筆を離さなかった。  
「持って帰ってもいい? ママきつとびっくりする  
よ!」とすてきな笑顔。  
曇りがちだった空はいつの間にか快晴に。  
ふと、お手製の地図を持って現れたKくん。  
「いま、みのせんせい ここにおるよ」と不思議な  
場所に案内してくれるかの如く重厚な一言。  
Kくんの案内のお陰か、まるでみんなの大きな  
地図のように広がっていった段ボールの画面。  
どんどん混ざっていくパステルの色味に「いろ  
んな色が深くなった」とぼそりとYくんが一言。  
運動会のクラス旗づくりでは、全クラスの絵を  
描いてくれたMちゃん&Wちゃん。

完成して感動ひとしおの際、「(描いた絵が)  
動いたらいいのに!!」  
なんてFantastic!!  
彼らの手、想いによっていろんなものに生命  
は宿る。  
Mちゃんに「頂いたお手紙に描かれていたイラスト。  
「うわ～すご～い!!」ってみののちがパチパチ  
しょ～るとこ!!」と彼女が教えてくれた。  
こちらこそいつもみてくれている安心感も  
感じて。  
楽しみを見つける瞬間に 一緒にいれること  
日々は楽しんでつくるもの  
そんな思いやりの瞬間がたくさんで。  
3年間、今の等身大の彼らと一緒に絵描きや  
制作の時間を過ごせたことに感謝を込めて。

今しか出せない彼らの一生懸命な線と色を  
閉じ込めた額縁の絵本たちは完成しました。





## 国分寺北部保育所 「子どもはおとなになれるけれど」

三好 智子 芸術士

子どもはおとなになれるけれど、おとなは子どもには戻れない。

保育所で出会う子どもたちが、おとなになるのはまだまだ先だけど、その途中の段階の、なんときらきらしていること。

こんなことあったかなあ、こんなこと思ってたかなあ、と自分の昔のことを思い返すけれど、ほとんど思い出せない。

子どもたちを見ていると、自分が未熟なりに、おとなになってしまったことを、残念に感じる瞬間がある。

私はもう、こんなに、世界に対してまっすぐに、

ことばを発したり、色をつけたり、遊んだりすることはできないから。

子どもたちの純粋な心からうまれる色や形は、幼稚や稚拙なものなのではなく、すでに完成された、ひとつのユートピアであるのだと思う。

そんな子どもたちの、今だけの、きらきらした動きや、ことばや、表情を、出来るだけ形に残したい。

子どもたちはこれから、おとなになる途中で、保育所のできごとを、忘れたり、失ってしまうかもしれないけど、私は、そばで見て、ずっと覚えていようと思う。

そして、子どもたちが大きくなって、ふと、保育所のことを考えたとき、ああこんなことしたんだな、と思い出すお手伝いができたらいい。

そんなことを考えながら、私は今日も、ユートピアに混ぜてもらいに、保育所に行く。



## 国分寺南部保育所 「時間が連鎖していく」

カタタ チサト 芸術士

物語が生まれては試されて生まれては繋がっていく。

布は軽くも重くもなったし、たわむれて、おどって、どういう風にまといたいか考え、吟味し、自分なりの愛着をもって関わってみた。彩り、切り取り、衣装にして舞ってみた。

うちわは、羽にもなるし自分を運ぶ乗り物にもなり、波しぶきにもなり、いきおいをもって海の物語をつむぐ必須アイテムとなった。

音。  
音を探した庭。反物の芯だった棒はリズムを刻み、土を削り、雲梯からみんながとりこになった美しい音色を引き出した。

リズムは動きになり、かっこいいポーズを編み出した。

色。  
色はふくらみ、顔やからだ、布にも、粘土だって彩り、お化け屋敷には「コワイ色」づくりにいかされた。

その生まれたひとつひとつが繋がって自分の、自分たちの創作した表現になった。  
時間は流れるのではなく、彼らがつくって繋いでいる。

きっかけは持っていってくれど、発生させる元はいつだって、彼らのなかにある。





## 高松保育園 「目の前に横たわる・子どもたちのころ。」

すぎやま あゆみ 芸術士

そうと、園庭の中へ進むと海紅豆(かいこうず)の樹がむかえてくれます。初夏には、紅い花が咲き、くっきりとした色彩。子どもたちは、毎週本堂へお参りに行きます。おうちの庭先のものや、花屋さんで自分が選んだ花をお供えます。子どもたちは、お花の名前も沢山知っています。夏真っ盛り、女の子がある日、準備をしていると。

「あゆみせんせいのにおいがする。」  
「どうしてわかるの?」問うと、  
「とっても、いいにおい。おぼえているよ。」

週1回、芸術士として子どもたちと、この世の中の万物といかに関わるか模索しながらの1年目の取り組みでした。

◎アコーディオンと、「竜のおとしご。」のお話。海の絵の制作。オリジナルの紙芝居をして、祖父から譲ってもらった楽器を抱えて、ご挨拶。初めて見る楽器。「わぁ!!」と驚きの声。音色に耳をかたむけざわわっと声が広がる。そと、目をつむり、蛇腹の開け閉めの音を聴かせてみたり、鍵盤にも触ってみる。  
◎「お母さんの、お腹のなかにいたきもち。」  
「どんな、感じだったのかなあ?」  
わすれちゃった子もいたけれども、教えてくれました。  
◎「ぼくたちわたしたちの睡蓮(すいれん)」  
クロード・モネの睡蓮をモチーフに、ドローイング。保育園に絵を飾りつけし、フランス語の子どもJAZZを聴きながら、踊り、走り回り、飛び出すくらいあふれる想いでした。



## こぶし今里保育園 「素材を知ることから うまれるフシギ」

櫻本 美千子 芸術士

ひとり1個のトイレットペーパーで遊ぶ。ころころ…ころころ…ひっぱっても、ひっぱっても無限に出てくる紙に歓声があがる。子どもたちの好奇心は止まらない。最後まで紙をほどいて「終わり」があることを発見。ひっぱりだした紙を、部屋いっぱいには伸ばしてみる。どこまでも、どこまでも伸びる紙に思わず笑顔がでるYくん。長い紙を集めて潜り込む。ふわふわのおふとんみたい。親指と人指し指を使い、ちぎる・破る・丸める。細く破っていたSくんの真剣な表情は、子どもたちの探究心の表れ。雪のように、花のように…ふわ〜ん、ふわわ〜んの世界。白くて柔らかなフシギな世界。

「うまれる」「かくれる」「かかえる」「なげる」「まとう」…子どもどうしのつながりから、遊びは広がり変化してゆく。部屋いっぱいになった紙に水のりを混ぜて紙粘土に変化させる。さっきまでの気持ちいいものから、ドロドロ、ベチャベチャに変化した紙。「こねる」「ぐにぐにする」「まるめてみる」子どもたちは、先ほどと、まったく違う遊びを発見。

手のひらはもちろん、足や体全体を使いその変化を楽しむ。「変化と不思議」を、科学者顔負けの真剣なまなざしで「探究」する子どもたち。その進化するところを信じている。





## 敬愛保育園 「私の仕事は、大きな『根っこ』を育てること」

櫻本 美千子 芸術士

いつも少人数グループで、井戸端会議するように制作遊びをしています。  
「きのうね、動物園行ったよ」  
「パパと公園で遊んだ〜」  
「ママにね、ごはん食べなさいって怒られた」

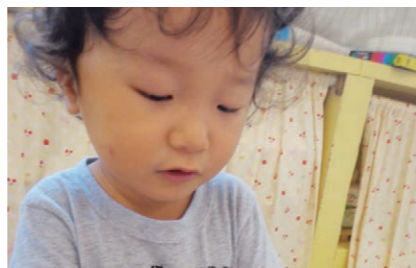
日々の出来事を話しながら、その小さな手で、クレパス、絵具、フェルトシールや手作り紙粘土、新聞紙、折り紙などの素材を楽しんでいます。

素材に対する子どもたちの遊び方は、30人30様。  
制作が苦手な子ども、少人数で制作するお友達の楽しげな様子や作品を見て徐々に参加してくれるようになりました。

芸術士である私にできること。  
それは、小さなきっかけを与えることだけ。  
初めて見る素材であったり、遊びながらのお話で、子どもたちの想像力は 私の想像を超える「なにか」に変化していきます。

子どもたちは、大人が思っている以上に心の中でいろいろな「なにか」を育てています。  
そして育った「なにか」が、大人になった子どもたちの「心の根っこ」になるのです。

子どもたちが将来、大きな花を咲かせる為の、大切な根っこに「想像力」という良い栄養を与えられるようになればいいなとおもいます。



## 西春日保育所

ルカ・ローマ 芸術士

It is already 7 months I start to work with Geijutsusi in the kindergartens and I enjoy it very much for many different reasons.

First of all, work with children it's always inspiring.

Second it's always challenging.

As a sculptor/visual artist my first inner goal is always provide a new experience and let the children know the beauty of the making, the materials and brings to life own images.

In some way with who have no experience about quite every thing as a child is, it's pretty easy come up with a "new idea". What it is difficult is to present it in a

way they can take as much as possible. This force yourself always to double check what you know and how to show it without give anything for granted.

Working in a kindergarten means also work among the teachers. Same goal but different ways some times so different that looks too difficult to put together.

In this case it goes flawless : sometimes the teachers ask me to do a precise kind of work -shop some time I propose them my own.

Some time is possible other not . When happen the latest we think together a way around and even with my poor

### 和訳:

芸術士として西春日保育所へ通い始めて約7か月になりますが、毎回違った楽しさを満喫しています。

まず、やはり子どもたちとの作業はいつも子どもに触発されます。

そしてそれは常に新しい事への挑戦です。

彫刻家・ビジュアルアーティストとしての私の最初の目標は、常に子どもたちに新しい経験を与える事と、子どもたちに何かを作ることをす

ばらしさを伝え、素材に自分のアイデアという命を与える事のすばらしさを知ってもらう事です。

私にとってとても難しい事は、全く何も前知識のない子どもにそれが新しい経験だとわかってもらうように導く事です。

この点が現時点での一番の課題です。

ここでは何も問題なく進んでいます。

時に先生たちから私にワークショップをするよう

Japanese we find the way to understand each other .

Thanks to them I'm understanding better what can be done with and for the kids.



希望があったり、時には私からワークショップをさせてほしいとお願いします。

それらは実現したりしなかったりですが、先日は私のつたない日本語でも先生たちは理解してくれて、一緒にワークショップについて話し合いました。

子どもたちとどのように接していけば良いかを教えてくれる先生たちに感謝しています。



## 西光寺保育所 「思いついていく。」

松野 礼子 芸術士

活動の時間、思いもよらない方向に進む時がある。

魚をいっぱい描こうの時間。2人の女の子が描いた絵を2枚繋ぎ合わせたのがきっかけで、描いたそばから絵をどんどん繋ぎ合わせる子どもたち。いつのまにか水族館を作っている。どんどん長くなっていて、何度テープが剥がれても張り直す。絵を乾かす為、外へ持って行く時も「のいた〜」「こここめて」と大騒ぎ。外でもきれいに並べて「おかあさんみたらびっくりするんちゃう」「すごいんできた!」と満足そうな顔。(写真1)

また別の日には、絵を描いた後にマスクを作る男の子。お部屋を出たのでそっと見て

みると、自分のマスクを被って鏡を見ながら1人戦いごっこ姿。(写真2)

園庭に出てお花を見ながら描いた日は、描いた太陽に茎をつけて「たいようのはなで」とお花を作りだす。(写真3)

大量のスズランテープ貼った時は、目の前にすると体が勝手に動くよう。持って走ったり「ぞうの鼻〜」「しっぽ〜」と付けて踊る姿も。(写真4)

ロール紙に誰かが描いたクレヨンの線に、私がシールを貼りだすと「せろろみたい」「みちや、どうろや」「じゃあシールは車な」とシール貼りに物語が。大きいシールはトラック、

重なった所は事故。「どうぶつえんもつくる〜」と膨らんでいく物語。(写真5)

こちらが求めているものではない思いつき。ふっとした瞬間に出てくる。ふっと体の力が抜ける思いつき。



## 川添保育園 「16人との時間」

松野 礼子 芸術士

川添保育園の活動は、年長さん16人。少しずつ、子どもたちの事を知っていく日々。

「まっちゃんみよってよ」とできなかった逆上がりを披露してくれた朝。「ここけがしたんで」「歯ぬけたよ」「もうすぐたんじょうびで」できるようになった事、家や園での出来事、いろんな報告から始まる一日。

活動の時間は「こっちきて」「みて〜」「みよってよ」とたくさん教えてくれる。活動のたびに違う発見がある。

お絵描きの時間に緑色いっぱい描いていた子は、少しずつ他の色が増えていった。(写真1)

大人しい印象の子がボディペイントでは一番大胆に塗っているかと思えば、めちゃくちゃそうな子が躊躇っている。(写真2)

クレヨンでお絵描きした時、一心不乱に描く姿を見せてくれた女の子。(写真3)

土粘土の時間に家づくり。家が壊れそうになった時に写真を撮っていたら「まっちゃんこんどきにとらんといよ」とお叱りも。(写真4)

ボディペイントで吊した長い布。絵具をベタベタから始まり、電車ごっこ→布の下にもぐってトンネル→布を持ち上げて筋肉体操→綱引きと進化していく遊び。(写真5)

子どもたちがそれぞれ持っているものを、素直に出せる時間が続きますように。





## 高松南保育園 「HAPPY♡」

美濃 花織 芸術士

本年度からおじゃまして高松南保育園さん  
手先の器用な年長組のそらぐみさん  
とてもパワフルな年中組のひかりぐみさん  
それぞれの温度をひしひしと感じる年少組の  
ゆきぐみさん  
とてもキュートな2歳児クラスのつきぐみさん  
たくさんの方々のパワー  
順番に週ごとに巡回してみんなと重ねていっ  
たひととき。  
村井芸術士を夏にお呼びし、ひょうたん型の  
プールにてみんなでガチャガチャのカラーフル  
色にふれた際  
ふと片付け中に先生とお話中、ひらめいたコト  
村井さんの即席音響×みんなの活動やつ  
くったものが面白い化学反応を集めてくれる  
んじゃないか。

そこに、平川芸術士と一緒に作った、自身を  
表現するようにカタチになったmy衣装たちが  
彩りと愉快さをプラスしてくれそうです。  
そんなみんなで作る、楽しさを発表出来る  
舞台をつくらう…と水面下で計画、進行して  
いきました。  
夢みたいな時間旅行のような不思議な思い出  
にしたいなあ…みんなのキラキラした想いを  
集めなげや。  
ある日のお絵描き中、オリジナルの絵が溢れ  
る中、持参していた本の中の絵をしっかりと  
切り取って描く、うちゃん。  
彼女の色が「ずし」と溢れていました。  
いろんな風景をみつけるように広がる絵の中  
の世界。  
みんなのお絵描きの温度がいたるところで

ポコポコ生まれます。みんなでそんな時間を共  
有していると、ひとりのお絵描きとは違う行方  
になって描く線たちは 気持ちがこもる独特の  
線になる気がします。  
想いだけじゃなく、カタチとなっていくこと  
みんなの力でHAPPYな  
夢のようなお祭りの時間をつくりました。  
シンプルな情熱的なカタチ。



## 和光保育園 「3704色のこども便り」

松尾 由美 芸術士

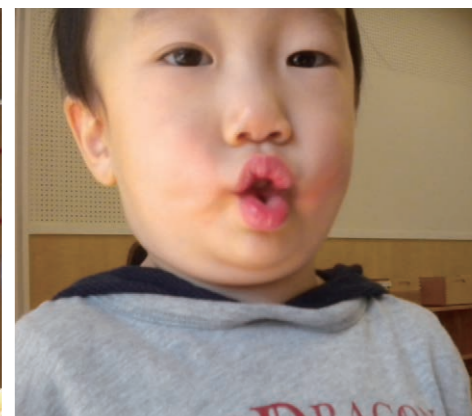
『せんせ おはよ—— 今日なにすん?』  
かわいい顔が集まって来て 朝のごあいさつ。  
去年から始まった出会いを通して  
私は子どもたちと関わります。  
今日も 楽しい一日のはじまりです。  
絵を描くのが とても好き  
まずもって うまく描こうという 姑息な欲もない  
描くことが楽しい  
それがすべて  
私が 山をスケッチしていた時のできごと  
みんなが集まって来て スケッチを覗きます。  
『うわっ すごっ かわいい!!』  
『えっ〜凄くないよ。  
ただあのお山の形が好きだけ…。』  
『僕たちも好きなものを描いたら せんせみたい  
に描ける?描きたい…。』

普段のなにげない ひとときから  
子どもたちとの会話が生まれ  
活動の種が生まれます。  
「ん〜何が好きかな?  
すいか? アイスクリーム? チーズ?  
飛行機 … あっ! 一輪車描いてみる?』  
『描けるかなあ』  
「あれだけ上手にみんな乗れるのに描ける  
わ〜」  
そのあと一輪車を教室に運び入れ  
鉛筆を配りました。  
「みたまま線で描いていってん、まちごたおも  
たら消しゴムあるし〜」  
間違いを 肯定して  
みたままに挑戦  
一輪車をつみつける真剣な顔 顔 顔

素直なひたむきさが聞こえてくる絵と出会った  
のです。  
わたしは今 みんなの力を借りて 一輪車の練  
習をしています。  
なかなか乗れないのは欲が深いのでしょうか?







## 若葉保育園 「たくさんの出会い」

平川 めぐみ 芸術士

少し不安もあった初日。一番最初に出会ったのはYさん。物怖じせず、元気に自己紹介をしてくれ、ふっと不安がほどける。今でも昨日のこのように思い出すことができる。今日からふじ組さんの一員。

1日のスケジュールの中で、時間を共にしながら、部屋の片隅にロール画用紙を広げることから始まった。素材そのものとの出会いや経験、自分とじっくり対話しながら創り上げる時間は実は現代社会の子どもたちには薄くなっている時間なのかもしれない。

とにかくつくることを続けること、毎週金曜日に、たくさんの出会いを携えて私が現れ、そこに居る ということ。

そうして見えてきた光は、子どもたちの変化となって表れてくる。つくることを通してじぶんの表現を見つけたひとたち

村井芸術士の弟子になったT君、クリエイティビティあふれるK君、誰よりも人のことを大事に思うK君、ものを作る天才R君、繊細な感性のMちゃん、何故か朝一番に必ず会うS君…

活動はみんなの声から次回に繋がっていく。十人十色とはこのこと。

天真爛漫なこの人たちの個性と感性がこれからもずっと消えずに灯っていくことを願って。

雨の日。外で行ったカラー片栗粉粘土の活動の片付けを、裸足で。激しく雨が降り出す。そうしていると、2階の部屋から3人の子もたちが「傘もってきたよ」と言いながらブルーシートを洗う私の頭上に傘を差し、心配そうにウロウロ。傘を差す位置はとても低かったが、ここでしっかり受け止めた。



## 今里保育所 「いろんなはじまり いろんなとちゅう いろんなさいご」

村井 知之 芸術士

□4/9 私の白髪の話になり、KくんやTさんが理由を考える「〇〇に触ったからそうなった歯を抜いて乗せたらなった」  
□4/25 Sさん 絵本読んで。「字は読めるけど、ちょっと読んだら(内容を)「忘れていくんや」。公園で石や落葉で何やら盛りつけていると、Tさん「亡くなった人のお花みたい」まさにそのもの 花を添える  
□7/16 Aさん(4歳)が突然サツマイモを発見し、掘ってみる事に。友達や先生も手伝いだし、その全貌が露わになると、それは木の根でした。「根っこやった」  
□8/20 新調したカメラをネットで購入したと話す、「ネットってどこにあるん?」私の足の裏をいじったり、眺めたりしつつの

R君(5歳)「足の皮が餅みたい」  
□8/22 ブルースマンの様にしゃがれた声で妖怪の事を、喉 いっぱい、体 いっぱいで喋る3歳の彼  
□9/3 虫籠のトンボが逃げて泣きしゃがむ彼クモの子がジャンプするのを初めて見て喜ぶ彼ビームの名前を言って発射してくるぞうさん(5歳)にスープやソースの名前で応戦する私  
□10/29 走って転んだR君(5歳)は転ぶ前に2つ位良くない事があったそうで この3つ目の転倒で、今日の半日は良くなかった と言いたげだった。そうかとうなずき暫く眺めてました  
□11/5 色画用紙を破いて面白い形を探る日が差して影の形も見るA君(5歳)が舌きながらじっくりやる 横から眺めて「何に見える」と言っている

途中から粘土に移行したTさん(5歳)はシャリのない卵とハンバーグだけの寿司をつくる見えた影を「音楽みたい」(楽譜に見えた?)とSさん(5歳)新しい切れ端を先生がくれて机に合体 階段や滑り台へとつながってゆく所庭で座している所にストライダーを停車「ねえ」と声をかけられ「こんにちは」再び走りだすねこ組(3歳)の彼



## みのり保育園 「楽しむ事は伝染する」

美濃 花織 芸術士

昨年の卒園式間近のある日、お部屋で片付け中、窓越しに「お絵描き楽しかったねえ〜!」とバンバン窓を叩いて想いを伝えてくれた彼らは、ひとつ大きくなって4歳児クラスに。新しいクラスになって、みんなでお散歩へ。立ち止まった排水溝の穴を見て「うちゅうとつながるとんで〜」とワクワクする声。やっほ〜!と言ったら、やっほ〜!ってそれぞれのリズムでかえってくるやまびこみたいに。お絵描きのひとときには、パステルをたくさん重ねて粉煙が出るくらいみんなの手のひらはのびる。ボディペイントの時、「絵の具は好きやけど体に塗るのはしたくない」とAくん彼に「Aくんの描く絵が大好きだよ」と伝えた。

ある日のお絵描きタイム。Aくん、根気よく100個のてるてる坊主を楽しそうに描いて、「あーつかれた!」と嬉しそうに笑う。「全体を考えるとおつき描いてしまった!」と言っていたKくん。それでもいいよ。いろんな角度と気持ちがあるから、それでもいいと思う。ひとつひとつに収まりきらないみんなそれぞれの世界のお絵描きになる。自分の中の色と。みんな、これからたくさんいろんな色に何度も何度も変わっていくだろう。じぶんだけの色あい 誇りを持ってほしいなあ。おとなになるとシュッとまっすぐに描ける線それも すてき

頭で考えるよりも先に手先と想いから描く今しか拾えない線それも すてきみんなのいく先は、いろんな場所と出会えるし、繋がっている。



## 城東保育園 「時間をかけて…」

谷 由貴 芸術士

芸術士として城東保育園に通って丸6年。当初は5歳児さんとだけ行っていた活動も今では2歳さんから行うようになり、職員の移動が無いのと、兄弟で通って来る子が多いせいか、園がアットホームな雰囲気、とても居心地良く、私にとってホームのような存在になっている。午前、午後に分かれて違う学年の活動。それぞれの活動時間前に1階トイレ前の材料置き場で準備をしていると、トイレに来たついでに子どもたちが口々に声を掛けてくれる。まわりついて身近にあったことや着ている服について話してくれたり、絵のぐを溶いていると私がどのクラスで何をするか聞いたりして、

気が済んだら各クラスに散って行く…。子どもたちと制作している時間も楽しいけれど、最近はこのコミュニケーションが好きなあ…としみじみ感じる。おとな子どもも繰り返し一緒に時間を共有することで、お互いの信頼感が高まり、それぞれが任せ合える関係だからこそ生まれる作品の数々。私は芸術士活動の意味を作品が発信している!と最近実感している。





## カナン十河保育園

ルカ・ローマ 芸術士

It is already 7 months I start to work with Geijutsusi in the kindergartens and I enjoy it very much for many different reasons.

First of all, work with children it's always inspiring.

Second it's always challenging.

As a sculptor/visual artist my first inner goal is always provide a new experience and let the children know the beauty of the making, the materials and brings to life own ideas.

In some way with who have no experience about quite every thing as a child is, it's

### 和訳:

芸術士としてカナン十河保育園へ通い始めて約7か月になりますが、毎回違った楽しさを満喫しています。

先ず、やはり子どもたちとの作業はいつも子どもにも触発されます。

そしてそれは常に新しい事への挑戦です。

彫刻家・ビジュアルアーティストとしての私の最初の目標は、常に子どもたちに新しい経験を与える事と、子どもたちに何かを作ることで、

pretty easy come up with a "new idea" and yet what it is difficult is to present it in a way they can take as much as possible. This force yourself always to double check what you know and how to show it without give anything for granted.

Working in a kindergarten means also work among the teachers. Same goal but different ways some times so different that looks too difficult to put together.

In the beginning it has difficult understand how to collaborate with the teachers, then, after several meeting

すばらしさを伝え、素材に自分のアイデアという命を与える事のすばらしさを知ってもらう事です。私にとってとても難しい事は、全く何も前知識のない子どもにそれが新しい経験だとわかってもらうように導く事です。

最初は芸術士と先生たちが協力することが難しかったのですが、ミーティングの場を重ねることで良い方法が見つかって来ました。

私たちがひとつのチームとなり活動することで、

we found the way and how we can work as a team giving the children more and better fun.

子どもたちにもっと面白く、楽しい活動をすることができるのだと実感しました。

## れんげ保育園 「空き地や寄り道の価値」

村井 知之 芸術士

何度も地面に地図を描いた私の家がどこで園かどのくらいで…と皆も自分の家を描く

□4/11 人工芝生のすきまからKくんが円形の留め金を見つけ、「お金(硬貨)がある」

□4/30 地図中、私の車のサイズの話になり、Kくん

「ちきゅうよりちいさい」

クモの巣のことを「クモの毛」

フェンスの所でのおはなし

「まっくらやったらなんで見えんのやろう?」

管を注射器にして

「手に空気が入ってきつきつい」

たんぼぼRくん

絵を描くEさんのつぶやきにあわせて

「ろぼと〜、かいじゅう〜」の即興歌ができる

揺れていないこのぼりを見て「おいてきよる」たんぼぼおとこのこたち(3歳)めくるめく静けさ 中立的興奮しっとりした毎日□6/3 「う〜え、し〜た」 田植え音頭をこしらえましょ、となり、苗を植える動きを基に振付。□6/10 ゆりさん(4歳)とも音頭〜からだのあそびへ

保育所を動かすと皆で壁を押ししたり

□6/17 地面とは仲良し われる石/われない石探し/遊びが着火。熱は冷めず、Rくんはランチ時に(弁当のお米を見て)

「このごはんも割れとるな」

□7/1 民俗楽器・手作り楽器等で音出した後、じゃあチンドン式で、と園内を練り歩く

□7/11 お祭りで先生も親御さんも交じってのチンドンパレード

派手な活動/出来事にはその味わいが地味な活動/出来事にもまたその味わいがあり□10/31 近所のおじいさんとヤキイモ。美味しくなる様に周りで楽器隊、みこし隊、ししまい隊でヤキイモ音頭〜その時にはわからないけれど後でじんわりくる味わいもある



## さくら伏石保育園 「ワクのない無限のいきおい」 片岡 明日香 芸術士

活動の写真を撮っていると、みんなとても勢いがあって写真がブレてしまうことが本当に多い。  
「ほら! できた!!」と、作ったものを頭の上にバツと掲げて、勢いよく走り寄ってきて見せてくれる。その駆け寄ってくる時のスピードは、彼らの中の「できた!!」という気持ちと比例している気がする。  
塗った色に満足しないと、眉間にしわを寄せて、「この色じゃない」と座り込み、塗った色をじっと見ている。  
「これ、熱いんよ。」粘土でつくったピザを見せてくれた子は、本当に熱そうに、粘土のピザをとても慎重に手の平にのせた。  
同じ素材から、まったく違うものが生まれる。それぞれが違う発想をして、つくって、

つくったものを見て、また色々なことを思いつき、お話をしてくれる。  
そこには、何の枠もない。自分で枠を決めてしまうこともない。  
無限にひろがっている想像力と真っ直ぐさ。それはとてもキラキラとしている彼らの強みであり、宝であり、これからもずっと無くさないでほしいと、彼らの真っ直ぐな勢いと笑顔から、いつも感じることである。



## 初音保育所 「あそびの延長」 松野 礼子 芸術士

今年から活動が始まった初音保育所。広い園庭にあるのはお山と小さい川と砂場。活動の合間、遊んでいる所に時々お邪魔する。  
手洗い場の横のコンクリートの壁は、大きなキャンバスに変身して水で絵を描く姿。「せいそうしゃ〜せいそうしゃ〜」と言ってビニール袋に水をつけて木の柵を拭く2人。(写真1)砂場では女の子2人が何か作っている。「なにつくりよん?」「わからん」「つくっじょたらできてくる」お山では木の枝をゴコゴコ「やま、きっじょん」と夢中な顔。(写真2)  
そんな事が繰り返されている園庭。活動の時間もその遊びの延長。

土粘土の時間「あたみにしていいん?」と聞かれ「どういこと?」と聞いている間に粘土に頭を突っ込んでいたり(写真3)女の子たちは粘土で誕生日ケーキを作って「ハッピーバースデー」と歌いだす。  
絵具あそびの日は用意していた絵具はあっという間になくなり「もっとちょうだい!」「おかわりください!」とリクエスト。  
自分の顔を描いていた時、あごを触っていた男の子。「なんしよん?」「あごかくけんさわっじょん」と触って確認してから描く姿。(写真4)  
紙粘土でつくった顔に色をつけていると、いつのまにか裏にも色をつけていて顔が裏表

できている。自分で考え、行動する。それはとても楽しいこと。目の前で証明してくれる子どもたち。





## 前田幼稚園 「こんなにも 前を向いている 線」

美濃 花織 芸術士

本年度より前田幼稚園へおじゃまして。初日、先生が黒板に「おたのしみ」と書いてくださっていた。柔らかな空気の中、みなさんとはじめまして。先生の提案にてはじまった年長組のぞうさんと「まえだの木をつくらう」新聞紙をぎゅっぎゅと丸めて新聞紙のお山をつくる。近くのお山みたいだね!と嬉々として、お山のベツに寝そべてペイントする。すてきな景色。絵の具や、紙管をつかって木の幹をどのようにしたら自立できるのかをみんなで考え、みんなひとりひとりの存在と意気込みが、その分、厚みのあるものになっていった。あーでもない、こーでもない、と真剣に話し合い、お互いを思いやる心、優しさを伝えるようにみんなでひとつの形をつなぎ合わせられたことに感動。

Rくんが木に記した言葉「いだいなる木でありますように」この言葉がこの前田の木を、みんなを支えてくれているよ、きっと。

そして、野菜の絵を描く際には、机の上の野菜たちを見て、キリッと表情と空気が変わる。みんなの線は 表面だけじゃなく、素材をしつかりよ〜く見ている線。視点に力が入ると、手元の線もしっかりと画面に生きてゆく。表情豊かなみんなの線。どんどんと、形になっていくのが目にみえてくると、キラキラと嬉しそうな表情をみせてくれる。自分自身と向き合うように、ひとつずつ仕上げた作品が連なると、みんなのパワーがいろんな表情を見せてくれ

心が動かされるように  
こんなにも 外に向かって 前をむいて。

彼らの世界はうーんと広い。



## 檀紙幼稚園 「続けることでうまれること」

平川 めぐみ 芸術士

夕涼み会の飾りをみどり組さんと作る。フラッグを切る作業は単調で、やはり人気がない。手伝ってくれた切るチームは「つかれたー。」といいながら「しんどい事もやらないかんの。」という先生と私の声に「でも、がんばる。」1年前だったら、先生でさ、もう嫌やと言っていたらうに…成長がうかがえる。年中、年長と、1年1年重ねるごとに遊びも表情を変える。初めは個人の世界の中で完結していたことも日を追い、仲間と過ごすことで変化し広がりを持っていく。それが今回、年少さんから年長さんまでを見ていて感じる。みんなの描いた絵の上で遊んでみたり、自分の世界の中で作ってみたり。

いろんなことを体験しながら、その人が作られていく。今日何するん?絵の具持ってきた?きっかけはほんの些細な事なのかもしれない。大人も子どもも同じ。2年目に入り、少し見えた子どもの変化は、恥ずかしくて自分の意見の言えなかった子がすこしづつ、自分のことを表現できるようになったように感じる。やり方が分からなくて最初は戸惑うが、こちらが手を動かすと、真似るところからはじまり、やってみようと思う。こと。毎日が変化の連続。その中でも不変的なような、そうでないような“時”を過ごすこと。言葉では表現できないコトがモノを通して、

モノを作るという行為を通して表すことができる。

そういう人だっている。





## 弦打幼稚園 「好奇心と自由な想像力」

谷 由貴 芸術士

「ナスビはええなあ〜」  
「何で？」  
「ナスビは小さいときから色がついとるけど、トマトは大きくなって色がつかんもん」  
ある夏の園庭での会話。  
その後私の知識をフル回転させて理由を説明したが納得してくれたかな…？。  
日に日に色やかたちが変わっていく野菜の姿を何度も何度も見に行っているからこそこの言葉！鋭い観察眼に脱帽した。

朝、思い思いに遊んでいるときに、いつも廃材でこんなものが欲しいな…や身近に置きたいと思う気持ちをかたちにしてしている子どもたち。「みて！」と差し出してきたのは黒い紙で出来た鍵の束！

素敵だ〜!!!  
保護者の持っている鍵の束に憧れて自分も持ちたいと思う気持ちで作ったらしい。

子どもならではの好奇心と想像力の日々の積み重ね…ある制作の時間に限られた材料で子どもたちがアッ!という間に作った葉っぱの数々。

ひとつひとつ個性に溢れてキラキラ眩しく愛おしい存在感を発していた。



## 鬼無幼稚園 「創造する子どもたち。子どもたちからの教え。」

すぎやま あゆみ 芸術士

五色台の麓には盆栽や果樹など、自然豊かな立地に囲まれた幼稚園があります。はじめて、園を訪ねた日。ある年中さんのシャイな女の子がそうと、小さな手からふじ色の花びらを渡してくれた事がずっと印象に残っています。

◎白樺の鳥笛制作。みみをすませて。「鳥にだってなれるよ。」ビニールのマントやスカートで、園庭を駆け回る。鳥笛、水笛、ガラス瓶、大正琴、トランペット、コンサーティナ、オーシャンドラム(擬音楽器)を体験しながら。みみをとぎすませてゆく。「トランペットはぞうのあしおとね。」と、おしえてくれました。

◎Accordion. と、たつのおとしごのおはなし。さなすいぞくかん。紙芝居をきかせて、蛇腹の楽器でご挨拶。「そとで、うたうことができるよ。」想いが覚めないうちに、絵画の制作。

◎藍のたねをうえる。収穫。春からたいせつに育てた藍のたね。おしゃれエコBAGを繕いました。いっしょに、みつを吸いにきたミツバチ。舞い降りる小灰蝶(じみちょう)をずっとみる。ダンゴムシのお話をおしえてもらい耳を澄ませる。四季を振り返りながら、浅紅色の花を収穫。続きは、藍のたねをとり、もみもみをします。

◎柘榴(ざくろ)と子どもたち。イサムノグチの彫刻などを観賞しエスキース。木炭や、鉛筆でキャンバスに施す。柘榴(葉、実、種)をさわったり、油彩絵の具も使います。芸術士の油彩のパレットも触ります。

あるがままを交換しながら、小さな愛をもらい、共に助けられることもあり、懐かしくもあり、純粋な感性にふれ、詞ひとつひとつころ揺さぶられます。



# 可能性の育み 芸術士。

参加施設 先生のことば

## 塩江こども園

普段はなかなか糸馬馬できないいろいろな素材（プラスチックの容器、ガムシグザン、ガチャガチャボールなど）をたくさん用意して下さることで、素材に飽きられず楽しませ工夫して作るおもしろさなどを十分に味わうことができています。その中で、子ども一人ひとりに優しく寄り添ったり子どもの姿を十分に認めて下さることで子どもの意欲や自信につながり、しっかりと「あ」「お」「ま」「あ」「び」「あ」のお土塩江子の大きな成長につながっています。  
作品展などの行事では、みなさんのアイデアやアドバイスもいただくことができ、職員も引き込まれます。おかげで、今年も素敵な作品展となり、保護者の皆さんに喜んでいただけたと思います。

## さくら伏石保育園

日々の保育の中で、『感じ・考え・行動する』ことを大切にしています。とりわけ造形活動は、子どもたちが興味あることをイメージをもって表現する大切な活動です。そこに芸術士が関わって下さることにより、保育士だけでは取り組めなかったような、ダイナミックなことができたり、さまざまな素材に触れることができ、活動が膨らんでとてもいい機会になっています。また、保育士とは違った目線で、ゆっくりと自由に活動する時間を保障して頂き、子どもたちも芸術士の来園を毎回楽しみにしているようです。

## 川東保育所

「今日は、何するん?」「何、持ってきたん?」と、子どもたちは芸術士さんが来る日、ワクワクしながら心待ちにしています。

様々な素材でダイナミックに遊べる開放感と、自分で表現したものをもそのまま受け入れもらえる安心感が、心地いいと感じている子どもたち。その心地よさを友達と一緒に味わえるとても貴重な体験をしています。

活動中での、子どもたちの表情やつぶやきを丁寧にあつめた芸術士さん目録のコメント入りトピックスは、保護者からも楽しみにしているひとつです。「家では経験できないことを、させてもらっています。」「友達とこんな表情で楽しんでいるんですね」などの声が寄せられています。

また、発達年齢に合った芸術活動を芸術士さんと保育者が一緒に考えていく中で、新しい発想のヒントを得て、ともに創作活動していきながら楽しい保育活動へとつながり、子どもの笑顔がいっぱい! 楽しい作品がいっぱい! あふれる川東保育所になっています。

## 和光保育園

☆テーマに基づいた中でオリジナリティのあるものがのびのびと表現できるように楽しめている。短時間でやっていた子も集中して一定時間描き込めるようになってきた。

☆こうでなければという抑え方をやめて、大きな考え方で活動を展開し子どもの「〇がいい!」「〇がすてき!」と認め受容していくやり方が学べている。

☆子どもたちから保護者の方にも楽しかった経験が伝わっているの、保護者もありがたいと喜んでいる。

## 屋島保育所

保育活動では、静かな、めげないタイプの子が、カタンの動きに誘われて楽しんで参加している。

また、保護者からは「カタンが来ると心待ちしているよ」との声や、活動中の写真を掲示しているのを見て、「実際に見てみたい」との声が多数寄せられています。

保育者は、カタンの活動が安全にできる西に履きながら、小道具や芸術士同士のコラボから発生する新たな雰囲気、保育の刺激となり、感性を磨かせてもらっている。

## 松島保育所

子どもたちみんな、芸術士の先生が来てくれることを毎週楽しみにしていて、活動に意欲が湧いています。様々な素材に自由ながらのびのびと表現を楽しみ、姿があり、保護者の方もトピックスや作品展示方法や素材の使い方、アイデアを伺うことで、とても勉強になりました。日頃の保育に活かせる活動をしてくれていること、感謝しています。

今来たばかりのころは、めいめい先生、とこのステキな保育所全体が、人々の物語の、とこのまじりに、何かがあふれる場所

## 大野東保育所

- ・芸術士の先生が来てくれる日は「何するん?」「何、持ってきたん?」とワクワク感をもって子どもたちも心待ちにしています。
- ・自由の中で「何?」のかわりを持って、集団の中で自分を出し、手紙にも「自分を出しているように感じる」
- ・保育士の立場からも「自分の部分かみえるところがある」
- ・行事でのアツアツや表示作りでは、様々なアイデアに感心しながら、奇に取り組み、保護者からも好評の声がある。

## 香西保育所

金曜日の朝、芸術士の先生が「おはようございまーす!」と香西保育所へ出勤してくれます。子どもたちも保護者もそして私たち職員も、みんなが芸術士の先生をごく自然に香西保育所の保育者集団の一員として迎え入れています。子どもたちは「松野先生、今日は何をするん?」と、見たことや触れたことのない素材で楽しいことをたくさん経験させてくれる松野先生が大好きです。それは、子ども達の作る意欲や発想、工夫しているところ、そして素材に向き合っている時間や素材を楽しんでいる時間など全てを受け入れ、温かく見守ってくれていると感じているからだと思います。

私たち保育士も芸術士の先生と一緒に保育させてもらいながら、子どもを捉える視点や言葉のかけ方、製作物を見る視点や素材の活かし方等、様々なことを勉強させてもらいよい刺激を受けることができています。

## 浅野幼稚園 「つくる、つくる、つくる。」

### 片岡 明日香 芸術士

活動2年目の浅野幼稚園さん。とにかく、「つくるのがとても好き。」という印象があります。

1年目の最初の頃は材料を前にしても「どうしたらええん?」という感じの多かった子どもたち。今は、朝、道具を運んでいると「今日は何するん?」と材料の入っている袋を覗きにきたり、「これ、つくったよ!」と、作ったものを元気に見せてくれたり。

そしてその『これ、つくったよ』と見せてくれるものはどこにでもあふ、ちょっとした紙の切れ端やラップの芯などで作られているのですが、ハッとするような自由さと、驚きに満ちたものばかりなのです。

つくる時も「こうしたい」というものがそれぞれの

中にしっかりとあり、みんなのつくる土台が、1年と数か月という時間を重ねる中で、どんどん大きくなっているのを感じます。

勿論、つくっていて形になりきらない時もあります。

それでも、その時にやったことは、次の『つくる』にしっかりと繋がっています。

その時々結果よりも、次につながる土台が、楽しく大きく膨らむような時間を一緒に過ごしていきたいと、彼らのつくったものを見せてもらうたびに思うのです。

### カナン十河保育園

私たちの保育者は、初めの外国人アーティストの方に最初は少しとまどっていました。子どもたちは「一緒に遊ぼう!」「こっちおいで〜」と自然な感じで関わりが深まりました。ルカさんやマリア君は絵を描いていると1人、2人と子どもたちが集まって大きな絵ができました。土曜までダイミックな仲間や町が…。現在では子どもたちが私たちのルカさんの経験がぐんぐんおぼえ、お友達と一緒に遊動活動を楽しんでいます。保護者の方も外国人のアーティストという点で、活動にとても興味を持って下さっています。

### 西春日保育所

保育所生活のひのびと自己表現する場であって(ほいという保育士の願いが、アーティストの先生方の力をかりて、少しずつ実現していることをうれしく思っています。ためらわずに表現する子ども達の作品は、大人には夏休みのできない空間に生まれ描いた線の水々しさには、感動を覚えます。保育士も作品のときは元だけでなく、子ども達の気持ちや、過程を大切にできるようになりました。保護者からも、子ども達の作品を見て、「子どもってすごいね!」と感動の声があちらこちらから聞こえてきます。芸術士活動に感謝、感謝です。

### みのり保育園

今年度は3〜5歳児が毎週火曜日クラスごとに活動してきました。(10月からは2歳児も参加)

絵の具を中心に様々な画材を提供してもらい、毎回子どもたちに限らず私たちも楽しみにしています。絵の具だけでなく、粘土やボンドなども子どもたちの自主性に任せて使えるので、その感触を感じながら時間がたつと共に、「あっ!ペリペリ」「ぐちゃぐちゃ」「ぐにゅぐにゅするよ」と楽しんでいます。

それらの活動を写真で掲示すると「わー、たのしそうやね」「すごーい!!」と保護者はうれしそうにのぞきこんでいます。

普段、自分の思いを発揮しにくい子がたくさん笑顔で写真に写っていて、楽しんでいる様子が私たちの目を引きます。どの子ども同じように受け止めてくれる芸術士活動と美濃先生に感謝です。

### 城東保育園

子どもにとって芸術士は自分を認めてくれ、“えあそび”の時間を一緒に楽しんでくれる存在のよう。絵あそびで子どもが作り出す“もの”は一人ひとり違っていて面白く可愛らしいです。クラス全員で大きな絵や作品を完成させた時には子どもにも大人にも充実感でいっぱいになっているようです。絵あそびの時間を通して新たな子どもの姿を発見できるのが楽しみです。

### 川添保育園

子どもたちは、最初 絵具を使っても単色のみを使うことが多かったのですが、芸術士の方が来て下さり、ボディペイントや大きく伸び伸びと絵を描いたり、色々な活動を経験することにより、色を混ぜると新しい色になったり、水の量で色の濃さが変わるなど目で見て感じる事が出来ました。又繰り返し指導して下さったことで子どもたちも絵を描いたり、作ったりすることが楽しく好きになり、表現が豊かになりました。保護者の方も大人では思いつかないようなアイデア、発想などがどんどん出るようになったと感心していました。芸術士の方の日々の活動に感謝しております。

園長先生のご挨拶

### 弦打幼稚園

段ボールなどをキャンパスにして、絵の具を塗ったり、大きな筆で絵を描いたり、スタンプングをする中で、子どもたちは、汚れることを気にせず、のびのびと製作をするようになってきた。また、クリアファイルを羽に見立てたり、紙粘土で目を作ったりするなど、素材の多様な使い方、色彩のセンスに学ぶところが大きく、教員の教材研究になっている。

特に昔で草木染めをしたのは、子どもたちにとって貴重な体験となった。

普段教員が指導して作成した作品に対しても、しっかりとよさを認めてくれるので、教員の自信につながっている。

園長先生のご挨拶

### 檀紙幼稚園

昨年度に引き続き平川先生に来ていただき、子どもたちは親しみながら、毎日「今日はどんなことをするのか?」とワクワクした気持ちで造形活動に取り組んでいます。園の活動時だけでは味わえない多種類の素材に触れたり、全身を使ってダイミックに表現したりしながら、描く・作るという楽しさだけでなく、五感を使い「不思議だな」「おもしろそう」など興味や関心を広げながら、自分の思いのまま表現する楽しさと十分に味わう機会になっています。「もともとやってみよう」という意欲が生活の様々なところで生かされてきていると感じています。

### 鬼無幼稚園

今年度、本園、また、本園職員・芸術士の先生にとっても初めての芸術士活動でした。みんなで相談し、手探りの活動ではありましたが、子どもたちの様子をその都度受け止めながら取り組んでいくことができました。

これまでを振り返ってみると、表現活動以前に、子どもたちが“感じる”ということをお大切にかかわってきたように思います。日々の何気ない生活の中にある子どもたちの気付きや心の動きを、子どもたちの表情やつぶやき、姿などから、芸術士の先生が丁寧に受け止め、かかわってくれています。子どもたちと遊びや生活をともにする中で、心を動かしながら、芸術士の先生のそんな姿や降園後の話し合いを通して、私たち自身も沢山の学びがあります。

本園の豊かな自然や環境を生かすことはもちろん、大きな布や様々な素材、いろいろな楽器や音、ミュージアムでの芸術鑑賞など、通常の保育の中では、出合うことがなかったかもしれない“もの”や“こと”との出会いもありました。そこで、感じたこと、経験したことが少しずつつながったり広がったりしてきているように感じています。子どもたちが自分なりの表現を楽しむ姿や意欲となって。

毎回の芸術士の先生のドキュメントや写真、作品などを掲示し、活動の様子を保護者や地域の方にも伝えるようにしています。子どもたちが伸び伸びと楽しむ様子を、驚きや喜びの声も聞こえてきます。

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

### れんげ保育園

米満思の子どもたちは、はじめは人見知りしていましたが、生活と共にするうちに、親しおを持ち、一緒に遊んだり、踊ったりして、遊ぶのが好きになりました。保育士の優しい、何か面白いことをしてくれの人、不思議な雰囲気を持っている人と、思っているのと同じです。以上思の子どもたちの、いつもできる体験(車に絵を描く、プールに紙ががチャを入れる…)をさせてもらったり、小で保育士さんに身を預けたりしてはいますが、子どもたちの想像力がよく、遊びが広がることも多くあります。保護者も写真もいつも楽しく見えています。保育士も色々な視点で、お母や子どもたちの様子を認めることができ、感性が豊かになってきています。

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

### カナン十河保育園

大きな一枚の長い紙にみんなでお絵かきをしました。床に寝かべて描いたり、ダイミックに大きく描いたり、紙の下に、置く場所が違ったりでも、子どもたちには楽しい遊びの時間になったようでした。

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶

園長先生のご挨拶



## 高松保育園

あゆみ先生が来て「今日、何する？」子どもたちのワワワとした声か聞かれます。活動が始まると「わぁ」「きれい」「ほんか楽しい」あちらこちらで歓声が上がります。活動を始めた頃は、少しとまどい、遠慮がちだった子どもたちと保育士でしたが、今では、楽しい楽しい活動になりました。自分を表現し、気持ちを描くことや劇のこにふっけ、あるかまの作品が得意になります。どの子も自信たっぷりです。充実感に満ちています。あゆみ先生とダイナミックな活動を通して、保育士は、ちがった多面からの認め、イメージを重ね、笑顔いっぱいの子どもの姿に保育士もワワワする毎日です。

## 西光寺保育所

芸術士さんの豊かなアイデアにはいつも驚かされます。子どもたちの興味や身近な素材から、ちがった工夫で、楽しい活動へと発展しています。

子どもたちの小さなつぶやきや、ふとした表情にも敏感で、活動の写真やコメントも子どもへの愛情にあふれています。

これからは連携して、生活の一部にある美術活動をより味あえるものにしていくと思っています。

## 初音保育所

ダイナミックな活動を通して子ども自身表現が豊かになつていゆように感じます。子どもたちの声、行動、すべてにおいて受け入れのこころで子どもが嬉しくなる。それが自信へとつながり、受け入れ、認めることの大切さに改めて気づかされました。ともに活動に参加させていく中で、この子こんなことできるんだ”など新たな子どもの姿を見ることが。そして何よりも子どもたちの発想に驚かされる日々です。毎回子どもたちの新しい発見を見ることができ日々感謝しています。私たち自身、心から楽しませていただいています。これからは、ずっと子どもたちの新しい発見や発想を大切にしながら、ともに楽しんでいきたいです。

## 林保育所

今年度初めて芸術士の前に来ていただきまして、子どもにはすでに先生が大好きに、毎日毎日の活動を楽しみにしています。制作活動が苦手で難しい顔をしてから絵を描いては、子ども先生活動を通して「こころが柔らかい表情を見せるようになった」、笑顔と活動にやり取りがうまくなりました。保護者の活動内容を理解し、子どもが思い通りに活動が環境をこのように協力してほしいです。今年度、子どもの作品の出来栄を気がかりながら制作活動していましたが、先生も子どもたちの活動を見てうちに子どもたちの「うまくなった」という思いに寄り添って一緒に作りあげていくこの大切さを感じています。制作の出来栄よりも、子どもの発想や表現が中心で、楽しい活動と進めるとかを大切にしたいです。

## 前田幼稚園

子どもたちは「みのっち〜」と芸術士に親しみを感じ、「今日は何するん？」と活動の時間を楽しみにしています。美濃芸術士はいつも子ども一人ひとりの表現を受け止め、認めてくれます。そのような安心感のなかで、子どもたちは様々な種類の素材や色鮮やかな画材を前にすると「今日は何が始まるの?」「やってみたい!」と、目をキラキラさせています。子どもたちはワクワクした表情や真剣な表情で、夢中になって造形活動を楽しんでいます。

## 若葉保育園

芸術士の平川先生と一緒に、絵の具や紙類・布や糸などの様々な材料を使って遊んだり、作品づくりをするのが大好きで、来園して下さる金曜日を心待ちにしています。

ハロウィンパーティーには、布を切ったり貼り付けたりしながら個性豊かなステキな衣装で参加できました。

平川先生と自由に造形遊びを楽しみながら、思いおもいに制作をしていくうちに、子ども達の発想や想像力が豊かになってきたことを感じます。

また、保育士も平川先生と相談しながら活動をすすめていく中で、材料や楽しいアイデアの提供をして頂き、造形遊びの幅が広がったことを感じています。

## 敬愛保育園

少人数で関わってもらえて、その子が好きな部分も専門的な視点で見ても、発想を上手に引き出してもらえているので、保育者も参考になり、又子どもたちものびのびと製作できるようになっています。出来上がった作品を保護者の目につく場所に展示しているの、送迎時に一緒に見たりして、会話のきっかけ作りにもなっています。

## 東植田保育所

様々な素材をいろいろな角度から見て、遊びに取り入れるところに感心し、自分も新しい発見ができています。いつもなら捨ててしまう型を切り抜いた紙や種を取った後の豆の殻なども素材になっていました。子ども達も一緒になって遊ぶ中で工夫する楽しさを学んでいるようです。また、保護者も毎回芸術士さんが出してくださる遊びの様子のトピックスを「こんなこともできるんですね」と感心しながら見えています。「楽しい経験がさせてもらえてますね」という声もありました。

## 福岡保育所

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。子どもたちはフリーダさんの楽祈を心待ちにしている。楽祈の朝フリーダさんを見つけると「やっほー!!フリーダさんや!」と嬉しそうです。目に見える変化は顕著ではありませんが、きと豊か成長につながっていると思えます。ドキュメントとして写真と掲示、いただいているのが、保護者の目に訴える「楽しい保育」を伝えることができ、保護者の方も、「こころは経験させてもらっている」と喜んでくださっています。また私たち保育者にとっては芸術士さんの活動に刺激をいただき、新しい風を感じることで、ありがたく思っています。特に芸術士さん独特の視点と、いいよあか、私たちと違う角度から子どもたち(活動や姿、言葉)を見ていただけ、新しい発見でいっぱいです。

## 木太保育所

子どもたちは芸術士の先生がくると、「先生きたー!」と嬉しそうにだきついていきます。くるのが待ち遠しいという感じで、いつも楽しみにしています。活動の中で、最初は緊張した様子もみられましたが、今では、どの子も自分なりに気持ちを開放して芸術活動に没頭しています。特にダイナミックな活動では、普段の保育所生活ではみられない様子もみられ、子どもたちが素の自分になって過ごせる大切な時間となっていると感じます。芸術士の先生の、保育士にはない見方や感性は素晴らしく、職員にとっても日々勉強であり、刺激にもなっています。

## 国分寺南部保育所

初めて芸術士の「ワワワ」の表現が聞こえて見ると時には子ども達だけでなく、保育士も感動しました。ワワワの動きや表情が、おもしろい、楽しそうと同じように、夜になると、体も動かして遊ぶ中で、表現する楽しさも身体中で感じ、自分らも出るようになっていきます。活動を通していく中で、表現活動の中だけでなく、自分の思いを言葉にして出せるようになり、表現活動の幅が広がってきていることを感じています。本当に子どもたちも、保育士もワワワのことが大好きで、ワワワが来てくれるのを心待ちにしています。ワワワの、いつも、楽しい、素敵な素材を、提供してくることで、いい刺激を受け、活動の幅も広がっています。ワワワの場合、共に楽しい時間を過ごせたことで、感性も豊かになり、身体だけでなく、心も元気に育っています。表現する楽しさ、おもしろさ、考えなくて、ありがとうございますと感謝の気持ちでいっぱいです。

## こぶし今里保育園

幼児棟では、樫本先生が来てくれる日を子どもたちは楽しみに待っています。朝の自由制作の時間には、ネックレスやメガネなど、いろいろな材料を使って、自分だけのオリジナルを作り、嬉しそうに見せてくれます。年長児は、Tシャツをマリーゴールドで染めたり、4、5歳児は、藍のたたき染めをしたり、樫本先生のアドバイスをもらいながら、素敵な作品が出来上がりました。また、トイレットペーパーを使っての紙粘土遊びは、0歳児から4歳児まで遊びました。各年齢によって遊び方は違っていますが、水のりを加えて縮んでいく様子ほどのクラスも驚き。いろいろな遊びを提供してくれる樫本先生に子どもたちも、保育者も感謝。感謝です。

# 「3,704色こども」

## 参加芸術士

村井知之 / パフォーマンス  
檜本美千子 / 日本画  
谷 由貴 / 染織・美術家アシスタント  
美濃花織 / イラスト  
池田早智 / 日本画  
片岡明日香 / インスタレーション  
カタタチサト / 身体表現  
平川めぐみ / ファッションデザイン  
松尾由美 / 洋画  
松野礼子 / 絵画  
三好智子 / 漫画  
Frida / ピアノ・うた  
すぎやまあゆみ / 油絵  
ルカ・ローマ / 彫刻  
計14名

## 参加施設

松島保育所  
福岡保育所  
木太保育所  
屋島保育所  
下笠居西部保育所  
香西保育所  
林保育所  
東植田保育所  
塩江こども園  
大野東保育所  
浅野保育所  
川東保育所  
国分寺北部保育所  
国分寺南部保育所  
高松保育園  
こぶし今里保育園  
敬愛保育園  
西春日保育所  
西光寺保育所  
川添保育園  
高松南保育園  
和光保育園  
若葉保育園  
今里保育所  
みのり保育園  
城東保育園  
カナン十河保育園  
れんげ保育園  
さくら伏石保育園  
初音保育所  
前田幼稚園  
檀紙幼稚園  
弦打幼稚園  
鬼無幼稚園  
浅野幼稚園  
計35カ所

発行日 平成27年3月16日

発行所 高松市健康福祉局 こども未来部こども園運営課  
〒760-8571  
香川県高松市番町1丁目8-15  
TEL 087-839-2358  
FAX 087-839-2360  
NPO法人アーキペラゴ 芸術士事務局  
〒760-0024  
香川県高松市兵庫町3-10  
TEL 087-811-7707  
FAX 087-813-1002  
HP <http://geijyutsushi.archipelago.or.jp>

制作 芸術士

編集 太田絵美子

デザイン 有限会社 ドリームネットワークアクティビティ

本書記載の写真・文章等の無断使用を禁じます。